

「ふじ21世紀プラン」に向けて

「第三次富士市総合計画」の作成準備に

市は、21世紀をみざした新しいまちづくりプラン「第三次富士市総合計画」の策定準備にとりかかりました。

これは、オイルショック以後、経済成長の鈍化や行政改革の推進、また、人々の価値感が物から心へ移行する中で、現総合計画が昭和60年をもって終了するため、新たに作成するものです。

新計画は、市民が健康で安全、快適な生活を営めることを基本姿勢に、昭和61年から75年までの施策を定めるものです。

昭和75年までを目標

昭和61年度をスタートする「第三次富士市総合計画」は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」をもって構成されます。

基本構想では、富士市が目ざす総合的な基本理念を示し、21世紀へ向けての将来像及び施策の大綱を明らかにします。

基本計画では、施策の大綱を具現化するための基本的施策を定め、計画期間は昭和70年を目標とする10年間とします。

実施計画では、向こう3ヵ年を期間とするローリング方式により、具体的な事業計画を定めます。

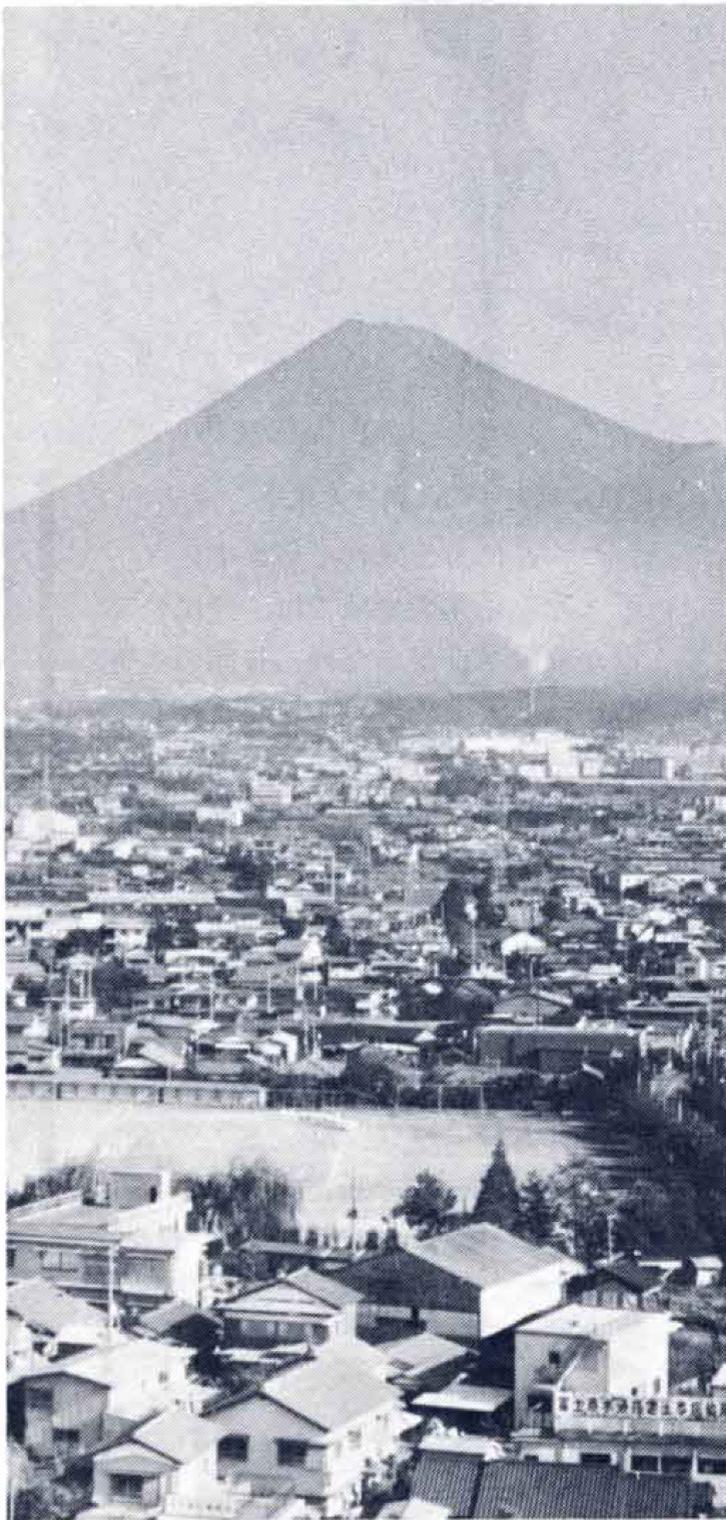
新計画策定の手順としては、計画

策定委員会の設置を始め、計画策定への市民参加、総合計画審議会への諮問、答申、基本構想の議決、市民への計画公表とすすめ、計画の推進として昭和61年度予算へ反映していきます。

市民参加によるまちづくりを

特に今回は、市民参加による計画づくりとするために、地区別の「まちづくり会議」や「総合計画を考える市民の集い」、「各界代表による意見を聴く会」などを開いていきます。

市は、すでに8月中旬に「市民アンケート意識調査」を実施しており、今後は、「総合計画プロジェクトチーム」を設置し、計画づくりの具体的な作業に取り組んでいきます。



富士市の表玄関が整備

9月完成予定の富士駅北口広場

富士市の玄関として整備事業がすすめられてきた富士駅前北口広場の完成がいよいよ目の前にせまってきました。同駅前広場の整備事業は54年8月着工以来4年の歳月をかぞえましたが9月半ばごろには、一般への供用開始ができることになりました。

また、駅前ビルも9月下旬にはオープンの手配ということで、21世紀に向けての新しい街づくりにふさわしい駅前広場となります。



整備された富士駅前広場